EFA アジアのリーダー目指すハイテム

研究開発・製造図面・品質管理は日本本社、製造は自社天津工場で

㈱ハイテム（安田勝彦社長―本社・岐阜県各務原市テクノプラザ2―10）は、今年で創業53年を迎えた。製造委託から自社工場での製造体制に移行して17年目となる中国・天津の自社工場と、EFA（Egg Farm Automation）でアジアのリーダーを目指すハイテムトータルオペレーションを取材した。

ハイテム自社工場

ハイテムは、世界人口の約6割を占めるアジア市場を見据え、中部国際空港から約3時間の距離にある中国・天津に自社工場を構築している。天津はトヨタ自動車の中国主力生産拠点としても知られる。

EFA（エッグ・ファーム・オートメーション）の寿命を決めるケージは、アルミ10%含有亜鉛ドブ漬け線材「ハイテムケージ専用スーパードブ線材」を使用し、自社工場で製造している。

究極破卵ゼロの集卵を製造し、ハイテム自社工場で組み立てが進む。

品質管理の徹底と人件費上昇対策の一環として自社工場・協力工場ともロボットの導入など自動化を積極的に推進している。品質管理の要になるAMZ鋼板（アルミ・マグネシウム・亜鉛合金メッキ鋼板）は、日本の鋼材専門商社メタルワン天津コイルセンターを中心に安定調達を図っている。

ケージの溶接強度や受け入れ部品の検査は、ハイテム本社が定める品質管理基準に基づき、自社工場で厳格に実施する姿勢を貫いている。

MADE by HYTEM

厳しく楽しく

ハイテムの行動規範は「厳しく楽しく」「情熱、執念、紙一重」「すぐやる、必ずやる、できるまでやる」。会社は生活の基盤として捉え、ハードワーキングはハイテムのため、そして自身のため――。工場長をはじめ、スタッフ一人ひとりが〝MADE by HYTEM〟に誇りを持ち、仕事に対する姿勢からこの精神が強く伝わってくる。

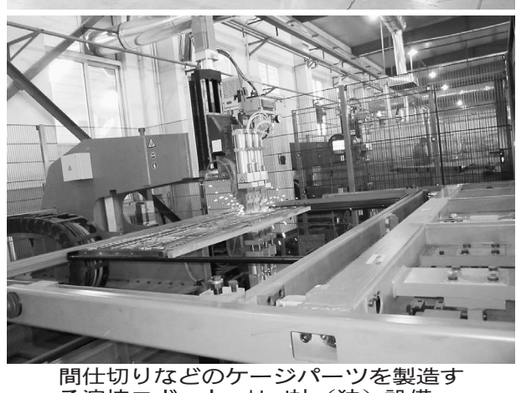
2008年の自社工場立ち上げ時には、トヨタ生産方式のコンサルタントによる指導を受けた経緯があり、現在も、工程の見直し、不良発生時の原因徹底分析と再発防止対策、2S（整理・整頓）など、カイゼン（改善）活動に積極的に取り組んでいる。さらに変動するEFA需要に柔軟に対応するため、工場スタッフの多能工化と教育にも力を入れ、業務スキル競技大会などのプログラムを展開している。

人材確保の幅を広げるため、ハイテムの本社・工場間のコミュニケーションは英語を公用語とし、本社を含め工場での英語基礎教育を行なっている。

自社工場がある
天津ハイテクパーク

鋼板供給を担うコイルセンター

ケージフロア自動製造ライン


間仕切りなどのケージパーツを製造する溶接ロボット　Ideal社（独）設備

組み立ては週間単位で
進み、翌週出荷される

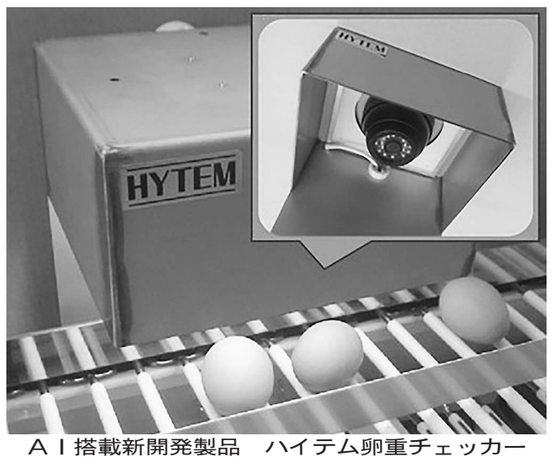
鋼板コイルをセットすれば製品が無人で生産される日本製最新鋼板フォーミング設備　ハイテムと協力工場の共同投資　フレーム関係部品製造に活躍

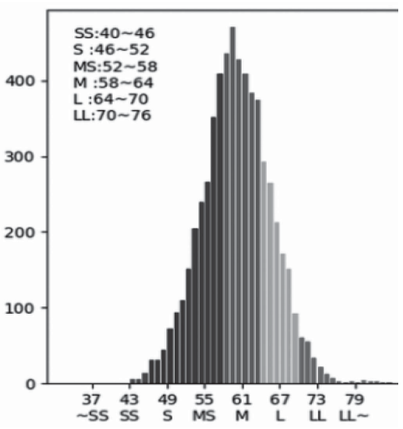
ベンダー加工設備ほかに
鋼材を供給するロボット

多能工を目指す業務スキル競技大会

日本のラジオ体操と朝礼
で１日の日程が始まる

春節には盛大なパーティー
本社からは数名が交代で参加


AI搭載新開発製品　ハイテム卵重チェッカー



鶏群ごとに得られる卵重分布

ハイテム本社工場

高性能・高品質設備でタマゴ生産を支える

ハイテム本社では、自社工場で製造されるすべての部品に関する製造図面や製造指示書の作成、研究開発を進めている。このため、本社に製造設備はないものの、正式名称は「本社工場」となっている。

1987年に発売開始したエッグファーム情報システム「ファームマネジャー」は30年以上の実績を持つ。近年は卵重、体重の自動計測装置開発に成功し、インライン農場のGPを含む総合情報システム、遠隔閲覧システム、クラウドなどの充実により、情報システム分野の強化にも力を注いでいる。

業務運営では、ウェブツールなどを活用した個別打ち合わせを中心とし、会社全体の会議は年4回に集約。フラットでスピード感のある少数精鋭による効率経営を重視している。また、春の会議には花見が計画され、自社工場からも工場長以下数名が交代で参加し、交流を深めている。

アジアのEFAリーダー目指す営業体制

ハイテムは、日本と中国（工場所在地）では生産者への直売体制（提携会社との連携を含む）を展開し、韓国、台湾、タイなど、アジア諸国では、各国総代理店とのパートナー方式（現在9か国）で営業展開を進めている。

営業方針は、50年以上にわたるEFAの技術蓄積と実績を背景に、『養鶏第2の利益』（設備導入後20年以上にわたる破卵率、電気代、飼料代などのランニングコスト差が1羽当たりの初期投資額を上回る可能性）を基礎とした技術重視の提案営業と、EFAの高いメンテナンス力が生み出す『養鶏第3の利益』（円滑な設備メンテナンスによる収益確保）を支えるサポート型技術営業を両輪に展開している。

日本市場では高いシェアを確立するとともに、市場規模が日本の約20倍に及ぶアジア市場では、先進生産者を中心にシェア1割の獲得を目指している。アジア市場での1割のシェアは日本市場の約2倍に相当し、将来的には売り上げの半分以上をアジア市場が占める見通しを視野に入れている。これにより、日本国内の少子化の影響を受けない、安定したEFA事業の展開を図る戦略を描いている。

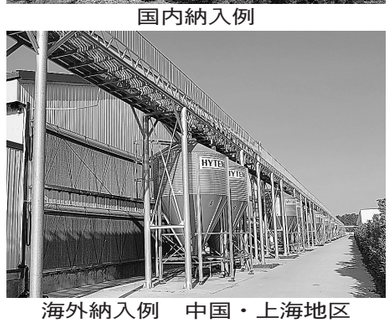
永続企業を目指す

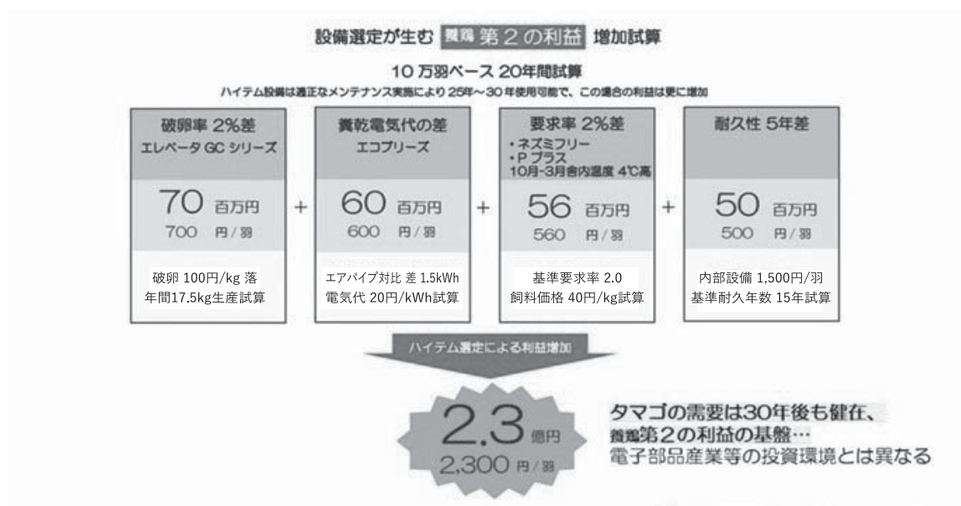
安田社長が1972年に創業したハイテムは、社会必須食品のタマゴ生産を支えるEFAを軸に、新卒採用を中心とした次世代形成に力を入れ、「燃える技術集団」の社風を大切にした永続企業を目指している。このため、創業家からの定員を男女各一名に限定し、社員一人ひとりの活躍を重視している。

ハイテム本社の設計チーム

本社内の稼働展示センター
主要設備の稼働状況を詳細に確認

国内納入例


海外納入例　中国・上海地区



今年４月の会議での集合写真